「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート

4－2－2　身近な農地が大切にされている

総合計画体系	健康領域・基本目標	まちの健康・環境を守り育てるまち
	個別目標	まちの緑を豊かにする
	めざす成果	身近な農地が大切にされている
		農地が適正に保全、活用され、都市農業への関心が高まっています。

「めざす成果」を達成するための施策展開（ロジックツリー）

めざす成果	具体的な施策	取り組み内容	事務事業名	担当課
身近な農地が大切にされている	農地の適正な保全、活用を図る	① 農地を維持しやすい制度を整える	農業経営基盤強化促進事業	農政課
			生産緑地管理事業	農政課
		農地情報を的確に把握し、農地の無秩序な開発を監視、抑止する	農業振興地域整備計画管理運営事業	農政課
			農業委員会運営事業	農業委員会事務局
			農地基本台帳整備管理事務	農業委員会事務局
	② 市民の都市農業への関心を高める	市民が、農業に触れ合う機会を提供する	ふれあい農園支援事業	農政課
			ふれあい施設管理事業	農政課
			農業体験事業	農政課
			やまとふれあいの里レンゲまつり支援事業	農政課
			市民農園支援事業	農政課

総合計画掲載指標①		総合計画掲載指標②	
農用地の利用権設定面積		市民農園応募者数	
計画策定時現状値	2.8ha	計画策定時現状値	592人
実績値（H22）	3.6ha	実績値（H22）	671人
中間目標値（H23）	3.9ha	中間目標値（H23）	600人
目標値（H25）	4.0ha	目標値（H25）	600人

「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート

主な取り組み内容	【農地の適正な保全、活用を図る】 ・生産者の高齢化により耕作できなくなった農地を生産拡大を希望する農家に、期間を設けて貸し出すことで、農地の保全を図りました。 （利用権設定　平成23年３月末総面積　約３．６ｈａ　総件数　２４件） ・市街化区域の農地を、生産緑地に指定することで、農地を維持しやすい環境を作りました。（平成22年12月末現在の指定状況：総面積＝６３．０ｈａ　３６８箇所） ・生産者の高齢化、後継者不足、又は事業拡大を図る生産者の支援に対応するため、平成２３年度から実施予定の援農サポーター養成講座の準備を進めました。 【市民の都市農業への関心を高める】 ・市民が土と緑に親しみ、収穫の喜びを通じて、都市農業の生産と消費に対する理解を深めてもらうため、市民農園支援事業、農業体験事業及びレンゲまつり支援事業を行いました。
構成事業に対する考え方（事業の量及び実施手法）	・都市農業への市民の関心を高めるため、市民農園支援事業を行うなど様々な周知活動を行っていきます。 ・市民が農業に親しむ場としての収穫体験について、従来は「収穫」のみの体験であったものを「種まき」、「草取り」、「収穫」と、一連の作業を行う体験方法に変更することで、農業への理解を深めてもらい、農地の保全を図ります。

今後の展開方針	注）．例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。	
新規事業の立案		（該当する事務事業）
既存事業の拡充	・経営規模拡大を図りたい農業者へ農地の利用集積が円滑に行われるように、市街化調整区域内の賃貸可能な農地について、農業委員会を通じて農業者の意向の取りまとめを行います。	（該当する事務事業） 農業経営基盤強化促進事業
事業の廃止・縮減		（該当する事務事業）
事業の効率化		（該当する事務事業）
その他見直し	・事業継続の必要性はありますが、財政状況が厳しいため、補助金などのコスト縮減対策を行い、事業全体の見直しを行います。	（該当する事務事業） ふれあい農園支援事業

施策への提言	
総合計画審議会記入欄	・市民農園の設置数の拡大や作物の栽培講座などの充実のため、今後もＪＡなどとの連携を強めていくことが必要と考えます。 ・遊休農地を所有している農家に対し農業経営基盤強化促進法に基づく利用権の説明を引き続き行うとともに、遊休農地を市民農園や観光農園として活用するなど、今後も農地の有効利用を推進しつつ、緑地としても保全を図っていくことが必要と考えます。 ・市民農園の応募者数については、既に成果を図る指標の目標値を達成しており、今後は応募者にできるだけ多くの区画を提供することを検討していく必要があります。